新政クラブ　行政視察報告書

【視察項目】「バスケを核とした地域振興について」

【報 告 者】石井 信重

【訪問日時】令和６年１１月７日(木)　１３：３０～１５：３０

【訪問場所】秋田県能代市上町１―３　能代市役所本庁舎 会議室８（座学）
秋田県能代市柳町５―２０　能代バスケミュージアム（施設見学）

【対 応 者】能代市議会 議長　安井 和則
企画部市民活力推進課 バスケの街づくり推進担当　諸澤 駿
能代市議会事務局 局長補佐　佐藤 秀太
能代市議会事務局 主任　伊藤 和希

【視察目的】

能代市には、昭和４２年度の埼玉国体で全国初制覇を成し遂げて以来、平成１９年度を最後に、これまで５８回の全国優勝を誇る能代工業高校（現：能代科学技術高校）バスケットボール部があり、その強さに由来し、「バスケの街能代」と言われている。

能代市では、この全国的に知名度が高いバスケを活かし、平成元年度から「バスケの街づくり事業」に取り組んでおり、バスケを核としたあらゆるスポーツの振興や、地域振興を図るため、各種取組を進めている。

館山市においても第４次館山市総合計画「後期基本計画」の中で「スポーツの振興によるまちづくり」に取り組んでおり、「館山若潮マラソン大会」、「館山わかしおトライアスロン大会」などのイベントやスポーツ合宿等に力を入れ、「館山ファミリースポーツクラブわかしお」など生涯学習スポーツへの活動支援、３４．３km の変化に富んだ海岸線や、波穏やかな鏡ヶ浦などの魅力あふれる海での各種マリンスポーツ、スポーツ観光等、スポーツを活かした地域振興を推進している。

そこで、「能代市バスケの街づくり推進計画」等を策定し、バスケというスポーツを核に意欲的に地域振興に取り組んでいる能代市が、スポーツで街づくりを進める先進的な自治体として、どのようにして地域を活性化させているのかを視察することは大変参考になると考え、目的とする。

【能代市の概要】

能代市は、秋田県北西部に位置し、東は北秋田市・上小阿仁村、西は日本海、南は三種町、北は八峰町・藤里町に接している。また県都秋田市には６０キロメートル～８０キロメートルの圏内にある。

東北地方を縦断する奥羽山脈に源を発する１級河川米代川が市域の中央を東西に流れ日本海に注いでいる。下流部には能代平野が広がり、その両側は、広大な台地が広がり大部分が農地として活用されている。また東南部は、房住山を主体になだらかな丘陵地となっている。西部は、日本海に沿って南北に砂丘が連なり、湖沼が点在している。

気候は、四季の移り変わりが明瞭で、対馬暖流の影響により、年間の平均気温は１０度前後と温暖であり、冬は低温で日本海側特有の北西の強い季節風が吹き、降雪日数は平均７０日程度ある。

面積は４２６．９５０平方キロメートル（東西約３０キロメートル、南北約３５キロメートル）で、秋田県の面積の３．７％を占めている。地目別では、山林・原野が２５．５％（約１０９平方キロメートル）、農用地が１９．９％（約８５平方キロメートル）で、宅地は４．０％（約１７平方キロメートル）となっている。

また、平成１８年３月２１日に、能代市と二ツ井町が合併し、新しい能代市が誕生している。人口：４７，８９０　世帯：２３，９６４（令和６年３月末日）

【視察内容】

１．バスケを核とした地域振興について（座学）［詳細は説明資料を参照］

（１）バスケの街づくり事業（平成元年度～）に至った経緯（背景・目的）

・能代工業高校（現：能代科学技術高校）バスケットボール部の全国優勝が当時３０回を超え、全国的な知名度が高まっていた。
・国の「ふるさと創生事業」を契機に「誇りと愛着の持てるふるさとづくり」を目指して、「バスケの街づくり事業」をスタートさせる。

（２）バスケの街づくり事業の主な取組

・バスケの環境整備
・バスケの普及・底辺拡大
・バスケイベントの開催

・バスケの街のシンボル、イメージアップ

（３）新バスケの街のしろ推進計画の策定

・平成元年度からのバスケの街づくり事業に取り組んで１０数年が経過し、「さらに継続・拡大」させていくことを目的に、市民との意見提言の募集、懇談会・市民講座・スポーツによるまちづくりシンポジウムの開催、意識調査などを経て平成１５年度から「新バスケの街のしろ推進計画」をスタートさせる。（平成２３年度までの１０年間）

・競技人口の拡大や能代カップ等への支援、教室・大会の開催や情報発信などの取組を推進する。

（４）バスケの街づくり推進計画の策定

・平成１５年度からの「新バスケの街のしろ推進計画」の中で、「バスケの街」を地域活力に生かし切れていない面や、底辺拡大は進んだが、市民意識が能代工業高校バスケ部の戦績に左右されるなどの課題があり、バスケを核に地域振興を図ることを目的に更に平成２４年度から「バスケの街づくり推進計画」を策定する。（令和３年度までの１０年間）

（５）取組内容と現在の状況

①能代バスケミュージアムの開設（平成２４年５月～）

・市中心部の空き店舗を活用。

・令和５年度には人気アニメ映画「THE FIRST SLAM DUNK」の効果により、年間来館者数過去最多の１６，６４０人を突破。

・地元小・中・高生らの校外学習の場としての利用や、インバウンド需要も相まって、県外・外国からの観光施設としての利用も増加。（県外が５２％と最も多く、特に東北・関東が多い）

②バスケの街づくり市民チャレンジ事業補助金の創設

・広く市民等の参画を図り、実施主体の形成を促進。

・予算１００万円。平成２４年度よりスタートし、上限額１０万円。（令和６年度より上限額２０万円）

・平成２４年度の「バスケの街能代ロゴ作成」や、令和５年度の「バスケ神社」など、令和６年度までに５６件の事業が採用されている。

③バスケの街づくり推進委員会の設置

・１０年後の人づくり、実践重視の視点で組織し、バスケの街づくり推進計画の点検と推進を目的としている。

・委員の任期は２年以内とし、再任を妨げない。令和６年度～７年度の委員数は１２人で、２０～４０歳台も多い。

④能代科学技術高校への支援と取組

・バスケ部の寮生へ、市とＪＡあきた白神の協同で、玄米を支援している。

⑤市と秋田ノーザンハピネッツとの連携・協力に関する協定締結

・秋田県をホームとするＢリーグ・プロバスケットボールチーム「秋田ノーザンハピネッツ」と、平成２８年度から相互の連携・協力を強化。
・クリニック、サイン会など市民との触れ合いや、バスケの街能代のＰＲ強化を図っている。

（６）これまでの「事業効果」とそこから見えた「課題」

【事業効果】
・様々な取組を実施したことで、スポーツで街づくりを進めたい自治体から、先進的な自治体として挙げられることが多くなった。（今回の新政クラブの視察がまさにその通り）
・平成元年度から約３０年間バスケの街づくり事業を行い、市の特色を活かした街づくりを推進したことで、「バスケの街能代」が定着した。

【課題】
・平成２４年度からの「バスケの街づくり推進計画」は、１０年の長期計画であったため、様々な状況の変化に対応できす、一部の取組が形骸化してしまったり、継続して事業を行うことができなかった。
・「バスケの街能代」を誇りに思う市民が、全体の半分にも満たない数値（市民意識調査より）が示され、今後のバスケの街づくりを推進していく担い手を確保する必要がある。

（７）第２次能代市バスケの街づくり推進計画の策定

・見えてきた課題をもとに、今まで実施してきた取組や計画を検証、整理するとともに、新たな視点を加え、バスケを核にした地域振興を図ることを目的に、令和４年度に「第２次能代市バスケの街づくり推進計画」を策定する。（計画期間は令和５年度～令和９年度までの５年間）→期間を短くすることで、様々な状況の変化に対応。
・街づくりのビジョン「バスケでみんなが元気になれる街」を目指すため、
① バスケの街で多様な関わりが生まれること
② バスケの街の魅力に触れられること
③ バスケの街を未来につなげること
という、３つの目標を定めている。
・情報発信力（X［旧 Twitter］や Instagram の活用）の強化にも取り組んでいる。

２．能代バスケミュージアムについて（施設見学）

◉ 国内外のバスケットボールに関する資料や書籍の並ぶライブラリーや、ユニフォーム・ジャージ・バッシュ等が展示されたミュージアム。能代工業高校バスケットボール部監督として全国優勝 33 回、「バスケの街能代」の礎を築いた加藤廣志先生のコーナー、NBA コーナー、企画展コーナー、バスケ関連グッズの購入できるコーナーなどバスケ愛に満ちあふれた素敵な空間が演出されている。
◉ 来館者増加の要因の一つが、令和４年１２月に公開されたアニメ映画「THE FIRST SLAM DUNK」で、作中に登場する高校のモデルと言われているのが、能代工業（現：

能代科学技術）高校ということにちなみ、聖地巡礼に訪れる人も多い。

- 能代科学技術高校バスケ部紹介コーナーには、選手の顔写真やプロフィールが掲示され、各種大会の試合映像も放映されていて、現役のバスケ部が頑張っていることを実感できる展示は、選手も街も応援したくなる思いに駆られる。
- 展示されているユニフォームは着用可能なものもあり、来館の記念撮影ができて、バスケファンはもちろん、バスケをあまり知らない人でも楽しめるような空間づくりもなされている。
- 来館時にもらえる来館記念シールには、公式X（旧 Twitter）や公式 Instagram の案内も付いていて、バスケの街能代の情報発信拠点としての役割も果たしており、今後も新しい企画作りや外観・内観のリニューアルも計画中とのことで、更なる進化が期待される。

３．質問と回答

《 バスケを核とした地域振興について 》

1. 経済への影響

［質問］バスケットボールを核とした地域振興が、能代市の経済に具体的にどのような効果をもたらしたのでしょうか。特に観光業や関連する産業の成長について教えてください。

［回答］バスケの街づくりに関する情報発言は、現在、バスケミュージアムが主体となって行っている。全国優勝 30 回以上を誇る能代工業高等学校バスケットボール部、それを引き継ぐ現科学技術高校、プロバスケットボール、工業高校がモデルとされている人気アニメの影響等、様々なバスケファンが訪れている。 令和 5 年度に実施された「バスケの街のしろデジタルスタンプラリー」（観光振興課委託事業）において参加者の実績から推計したところ、宿泊費及び飲食代、お土産等で約 1,000 万円の観光消費額を算出している。市内にある「お菓子のセキト」では、バスケの街せんべい（議会で視察議員に配布するお菓子）やバスケの街最中などバスケ関連商品を販売しているほか、当ミュージアムにおいてもお土産品を取り扱っており、好評である。

［質問］2024 年で第 37 回となる能代カップは、各メディアによる PR や経済面など、どのような効果がありますか。

［回答］（能代市バスケ協会の石井理事長よりの回答） 毎年開催される能代カップは、「バスケの街」「能代工業高校の伝統」といった固定的な情報と対照的に、高校バスケファンの注目を集め、年度の新しい情報を提供する意味でも重要な大会となっている。また、いつか能代を訪ねたいと考えているバスケファンの方々に、来能のきっかけとなるイベントであり、経済面でも、選手、観客、関係者を含め、3 日間

の大会で少なくとも5千人、多い年には1万人程度が関わると推定され、移動・宿泊・食事などで経済を活性化させているものと思う。

2. 若者への影響

［質問］バスケットボールが若者に与える影響について伺いたいです。

［回答］市内の社会人カテゴリーでバスケをしている若者（おおむね18歳～30歳未満）は、仕事終わりに市内体育館でバスケを楽しんでおり、定期的に行われる社会人バスケ大会に向けて練習している。ワークライフバランスの充実を図ることができていると考える。小中高でバスケをしていた若者以外に、社会人になってからバスケをやり始めた若者もおり、そういった若者がバスケに親しんでもらえるように、当市では社会人向けのバスケイベントを企画（残業バスケや健康フリースロー大会等）している。 また、小中学生はスポ少や部活での活動が盛んであり、全国大会へ出場するチームもある。バスケの街づくり事業の中においても高校生やプロバスケチームによる技術指導の機会を設けるなど、子どもだけでなく大人にもバスケの街が浸透しているものと考えている。

［質問］スポーツを通じて、地元の若者の定住や、地域貢献につながるような具体的な成果や取組はありますか。

［回答］「工業のバスケが好きだから」という理由で参加しているバスケの街づくり推進担当の地域おこし協力隊がいる。今後地域への定住につながってくれればと考えている。

3. 地住民や若者の参加

［質問］地元住民や若者には、どのような呼びかけを行っていますか。また、地域社会や他のスポーツとの連携をどう図っていますか。

［回答］住民に対しては、広報、地元新聞、SNSを使って様々な情報を周知している。現在の科学技術高校がなかなか思うような結果を残すことができていない時期が続いており、地域住民の中では、バスケの街づくりに対する意識が変わってきている現状がある。今後、市民に対する意識啓発をいかに行っていくかが課題となっている。工業高校バスケ部の実績、長くバスケの街づくりをしていることもあり、特に他のスポーツとの連携や公平性等均衡を図るようなことはしていない。

4. バスケの街づくり市民チャレンジ事業について

［質問］バスケの街づくり市民チャレンジ事業の概要、効果を教えてください。

［回答］平成 24年「能代市バスケの街づくり推進計画」策定の際、「バスケで何かを始めたいがお金がかかる。」と話が挙がり、そこでたくさんの方々が利用できるようバスケの街づくり市民チャレンジ事業補助金を創設した。創設当初は補助上限額10万円で、バスケに資する事業でかつ、新たなチャレンジ要素が認められる事

業に補助金を交付した。今年度から商品開発に力を入れたい思いで、10 万円→20 万円に増額。今年度までで 56 件を補助対象事業として採用しており、バスケに係るイベントを始め、商品開発、物品作成などに活用されている。バスケに携わりたいと思っている方々がこの補助金を活用して、大小様々なバスケへの取組を行い、バスケの街能代は行政主導ではなく、市民や民間などの関係団体の協力があって成りたっていることがこの補助金を活用する大きな要素となった。

［質問］成果や効果はどのように評価され、報告されていますか。また、成功例や失敗例はありますか。

［回答］成功例として、平成 24 年に「バスケの街ロゴマーク」の作成及び公募が行われ、現在、バスケの街能代のシンボルマークとして様々な場面で活用している。反対に失敗例として、同じ人や団体が補助金を活用するケースが多いことから、偏りがでてしまうことが挙げられる。

5. 公共施設の活用

［質問］バスケットボール関連の公共施設の運営や管理で、成功を支えている要因は何ですか。また、地元住民や観光客に対する施設利用促進の工夫があれば教えてください。

［回答］お越しになった来館者から、「来てよかった。また来たい」と、その一言が我々バスケの街能代の推進に関わる職員の原動力になっている。展示品の配置場所や品物の選定を工夫し、いつお越しになっても新鮮な気持ちで楽しめる施設運営を目指している。

6. 長期的な持続可能性

［質問］バスケットボールを中心とした地域振興を持続可能な形で続けるための具体的な戦略や、財源確保の方法についてお聞かせください。

［回答］マンネリ化しないような工夫に努めている。また、財源はふるさと納税基金を活用している。

7. 地域コミュニティの連携

［質問］バスケットボールを通じて地域全体をどのように巻き込んでいますか。学校や企業、市民団体などとの連携事例があればお伺いしたいです。

［回答］「第 2 次能代市バスケの街づくり推進計画」で、“バスケでみんなが元気になれる街”を街づくりのビジョンとして掲げ、バスケで多様な関わりを生み出し、バスケで地域と継続的に関われる関係人口の創出を目指し、バスケの街能代を未来に繋げることを目標としている。連携事例の一つとして、前述の市民主体によるチャレンジ事業の推進や、バスケの街能代の成り立ち、能代バスケミュージアムと地域との関わり合いについて、小中高生などの校外学習の場として協力してい

る。最近では大学生の卒業論文や課題研究として、バスケを起点としたスポーツによる街づくりを参考にしている学生が多く訪れるようになった。競技バスケだけでない関わり方を模索している。

8. 将来の展望

［質問］今後、この事業をどのように発展させていく予定でしょうか。

［回答］バスケの街能代のきっかけとなった旧能代工業バスケ部の歴史や功績を未来に繋げるとともに市民がバスケに親しみ、愛着を持てるバスケの街能代に発展していくことを目指したい。

《 能代バスケミュージアムについて 》

1. ミュージアムの設立目的と成果

［質問］能代バスケミュージアムの設立目的と、その背景について教えてください。

［回答］能代バスケミュージアムは、能代市畠町の空き店舗を活用し、能代市バスケの街づくり推進計画の推進拠点として平成 24 年 5 月に開設された。 「バスケの街能代を地域活力に活かしきれていない」といった点が挙げられ、地域に溶け込めるような文化的な要素を持つ施設を作ろうと意見が出て、能代バスケミュージアムは開設された。

［質問］能代バスケミュージアムは、設立当初から現在まで、どのような役割を果たしてきましたか。特に観光や教育、地域振興にどのように貢献しているか、具体的な成果を教えてください。

［回答］バスケを競技の面だけで捉えるのではなく、文化面の視点で捉えることでバスケの文化に触れられる空間を作ることができた。また、観光面において、令和 4 年度の「THE FIRST SLAM DUNK」公開により、映画の聖地として、多数のファンが能代市を訪れるようになった。来館者数が前年度 5,049 人から 16,640 人に増加し、様々なメディアに取り上げられた。映画公開を契機と捉え、市観光振興課と協力して、市内周遊を目的とした「バスケの街能代デジタルスタンプラリー」の実施、観光分野の地域おこし協力隊による聖地巡礼ツアーの実施など、観光振興にバスケの街能代が役立てられることを知った。

2. 運営の課題と工夫

［質問］能代バスケミュージアムの運営において、資金やスタッフの確保、維持管理に関する課題はどのように克服されていますか。持続可能な運営体制の確立についての工夫があれば教えてください。

［回答］資金はバスケの街づくり推進事業として予算計上を行っている。スタッフについては、会計年度任用職員３名を雇用しており、能代工業バスケ部等の映像をデジタルアーカイブするのが得意な職員がいたり、SNS の情報発言が得意な職員がいたりと、三者三様、それぞれの強みを生かした職員を配置している。維持管理については、古くなった空き店舗を活用しているため、軽微な破損や故障等はあるが、小規模な修繕を行う程度で済んでいる。

３．観光資源としての活用

［質問］能代バスケミュージアムが観光資源として能代市の他の観光スポットやイベントと、どのように連携していますか。観光客を呼び込むためのマーケティングや広報戦略についてお伺いしたいです。

［回答］バスケの街づくり推進担当の地域おこし協力隊とともに、地域イベントに積極的に参加し、能代バスケミュージアムをどこでも感じてもらえるよう「出張バスケミュージアム」を実施している。広報活動としては、能代バスケミュージアム公式 SNS（X、Instagram）を活用し、バスケの街能代のイベントやバスケに関する様々な情報を発信している。X のフォロワー数に関して、令和４年度まで約 4,500 人であったが、令和５年度で約 10,000 人に増加し、前年度から約２倍以上に増加した。些細なことでも発言し続けることで、この結果に繋がったと感じている。

４．今後の展望

［質問］能代バスケミュージアムの今後の展望や、より多くの来館者を引き付けるための新しい取組についてお聞かせください。更に能代バスケミュージアムの役割を拡大して、地域全体への波及効果を高めるための計画があれば教えてください。

［回答］新しい取組ではないが、訪れた方々がいつ来ても新鮮な気持ちで、新たな発見に繋がるような施設運営を目指し、展示品の配置や、新たな企画展の実施など、前に訪れた時と違う空間であるように、様々な工夫をこれからも行っていきたい。これからの能代バスケミュージアムの在り方について、現段階では具体的な構想はないものの、今よりも機能的で、市民から愛される施設を、関係団体と協議していきたいと考えている。

《 その他の質問 》

［質問］バスケの街づくり市民チャレンジ事業の中で、平成２４年度に「バスケの街能代ロゴ」を作成されているが、ロゴの使用などに制限等はあるのか。

［回答］平成２６年にロゴマークの商標登録をしているが、利用申請をしてくれれば、制限をあまりかけずに使用していただいている。

［質問］ 能代科学技術高校は公立高校であるので、高価な機材等の購入は厳しいのではないかと思うが、行政の能代市と公立高校の能代科学技術高校との連携や行政側からの支援等はあるのか。

［回答］県立高校に対して行政からの資金など金銭面的支援は難しい。ただし、能代科学技術高校バスケットボール部後援会を通じ、ふるさと納税を活用した年間２００万円程の寄付をしている。また、コーチによるクリニック等に皆さんが参加できるように協力している。

【 所　感 】

これまでに５８回の全国優勝を誇る能代工業高校（現：能代科学技術高校）バスケットボール部が現存する能代市は羨ましい限りだが、この全国的に知名度が高い『バスケ』を活かし、その優位性を充分に理解して積極的に地域振興の推進に取り組む姿勢には大変な刺激を受けた。

バスケットボールを核にあらゆるスポーツの振興を図り、「誇りと愛着の持てるふるさとの構築」を目指して平成元年度よりスタートした「バスケの街づくり事業」は、高校バスケット界の「第４の全国大会」と呼ばれる能代カップの開催補助金等、バスケイベントに対する支援をはじめ、公園等へのバスケリングの設置や総合体育館の建設、バスケリング型の照明灯の設置など、着実に事業を推進し成果を上げている。

また、更なる継続・拡大を目的に、平成１５年度から「新バスケの街のしろ推進計画」をスタートさせ、意見提言の募集、懇談会・市民講座の開催など、より市民をも巻き込んだ底辺を拡大させる事業を展開している。

しかし、推進計画を続ける中、底辺拡大は進んだが、市民意識が能代工業高校バスケ部の戦績に左右されるなどの課題に直面し、バスケを核に地域振興を図ることを目的に、更に平成２４年度には「バスケの街づくり推進計画」を策定。その中で、能代バスケミュージアムの開設、バスケの街づくり市民チャレンジ事業補助金の創設、バスケの街づくり推進委員会の設置など、「バスケの街」を地域活力に活かしきるため、より多くの新たな発想、工夫がなされ、３０年間にわたり途切れることなく事業を推進することの難しさと、進み続けることの重要性という示唆を与えてくれている。

これ程多彩な取り組みを行っていても、市民意識調査によって「バスケの街能代」を誇りに思う市民が、全体の半分にも満たない数値が示されており、市民に対する意識啓発をいかに行っていくのかという課題克服と同時に、今後のバスケの街づくりを推進していく担い手を確保する必要があるとの説明には正直驚かされるとともに、まだまだ進化し続けようという力強い意思が感じられた。

それらの見えてきた課題をもとに、令和４年度に「第２次能代市バスケの街づくり推進計画」を策定し、計画期間は令和５年度からの５年間と短くすることで、様々な状況の変化に

も対応して行きたいとのことであった。この最新の推進計画では、街づくりのビジョン「バスケでみんなが元気になれる街」を目指すため、前述した３つの目標も設定され、X［旧Twitter］やInstagramを活用した情報発信力の強化も重要視されている。

この度の視察を通して、館山市においても平成２２(２０１０)年に選抜大会優勝、インターハイ優勝、国体優勝と男子剣道三冠を達成した剣道や、柔道、水球、弓道など過去に強い戦績を誇る千葉県立安房高等学校の各部活動があること、視点を広げれば、マリンスポーツに適した海や温暖な気候、令和７年に第４５回を数える景観の美しい「館山若潮マラソン大会」、都心に近い立地など、スポーツによる地域振興に向け、取り組み方とアイデア、創意工夫や継続性等によって、多くの可能性と高いポテンシャルを秘めているとあらためて気づかせていただいたことに感謝したい。

地域振興、街づくりは、行政主導ではなく、市民や民間などの関係団体の協力、意識の醸成があって成り立って行くものであること、地域の持つ特性を活かすこと、柔軟性や持続することの大切さなど、多くをご教示いただいた能代市の、今後の取り組みの更なる進化を期待する。

以上、館山市の目指す「スポーツの振興によるまちづくり」おいて、非常に参考となる大変有意義な視察となったことを報告する。